新撰

奈良物語

下

日露堂藏

弁慶物語下

そのゝち弁慶ゆくえをたづねやへ来りぬ。伝のはまへあれや
やうぶは寺城やきたるあてるぶ。ひとりぐあにひとりぐさなるまこさも。
さしたるぶたくをあてはぶよもあるしぶんひとりぶもこ
弁慶ゆくえをたづねそんありぬ。ふるきは堂城ぶあるくをく
はりて来るせこへはぶそくだくれはをこそぶされた
はだんけいざいかうをもりさ弥はぶやうぐふはいくく。
りとよひあくぎやう城このむ分あれぞ。平家のさ
みちひたてくあんぶやうぶまにくむくんのごくを
まのひくるぶあさへくすくあふ入ゑ一ぶまくぐをか
城ふりぶうだいくりてぶぐれ代ぶまらくせんぶるい
ざんのぶつぜんあてたりちつぶぶらたうかいもはる

東京都立中央図書館蔵
アヤキ
ようこ山

そうりハはめんをへしとりいてらいたらしてぞあるけ
ふ。そのゝち弁慶らくちうにて平家のさふゝひた
のをかをとりけふふぬしとの大名。そのかゝ。ゐつち
れぞんでゝをとゝかづさのゐをゝ傷げきよ。あとゝふ
一人南千れつをゝれとも。をゝえゝひてゝでとゝをけふ。弁
慶ゝふゝゝれも。をゝぼ八人だゝりれかうしかゝあり
つゝゝ。あふぐぼゝふゝたゝくかゝうぼゝあもゝゝふが。ふい
なゝゐめて平家のさゝゝひたれをかをゝふるゝたゝあ
ゝたあゝすゝひゝゝあゝりゝさゝゝいをくれ百九十九ゐり
とゝりゝをゝとゝりゝつゝま一ゐりあゝさめれゝゝゝゐれふをゝた。
きゝく源の弟由ざゝしのゝこゝゝを作りれをかをゝとゝゝで
やゝ様ゝゝあゝりひゝふ

ひとつゝとやハこさぬのうちゝもれぬゝなりよ
うせうよりゝぷくゝまよりまみてひやうりもあぐぎ城
きゝあ給ひしゝ爲人ぞゝぴたかをとゝぐやどう
かぐふ不ふ六月十八日乃数月くまのあきふ水野の社
しんみて行あゝりぷ弁当いつもぷらのむぷやうぐく
ゝあもハきうきうびゝふかちんのひゝれふくろ糸
あぐゝれぷくゝまゝ紀ぷくもふやうゝれさうのこて。
びゝくだんゝうきうぷぷゝもみてぐろぐゝみてどぐぐ
ねをたてゝおづきふくいまさせおいうゝをぷたんで
ぐんぢまきふ海をせゝ爲ぷをゆんでのゝきふいこゝぐ
かゝふ元ゝへくぐすまゝた二ゝゝだちみそゝてゝゝと
ゝふぷゝれをゝる紀ゝハあけまゝもあ為をきゝつとふ

らあハぷゝれぬゝれハふかゝぐさふやゝとぷたさゝしハぷゝふ
りふぷひゝくれふぷのぷゝやこふぐゝやゝとけふ六ゝれ
ゝ為ぷ。こゝゝ作りれ作ゝをせめゝまぷきやだんよむゝい称
んぢもしてあゝてありれ弁当こぐゝ作ゝとにめをゝけ
てあつゝれひゝちをぷうぐひゝとゝふりぷたさゝやと
思ふりぷん去やゝんのゝ作ゝさ城ふぐこふほいゝたゝれ者ず
をゝりあ。だゝふきゝんごんゝまゝへつぷゝさゝぬやうにてぷ
ぐゝしのれまへを一あぐぐゝとゝりこ安めふぐぐんのだう
あておぐゝりあつゝぐらやうゝぐうつぷゝさゝしめてのれあ
にゝく弁当ぐひぢをゝらやうゝどけさを給ひぷつのまふかゝと
ぬき給ひゝんぷもゝをせをふりあげうしろとびよぷんづえ
ぐゝゝとひのきて殺中れゝとあまハぷ一人ぐひあ

とのゝ屋へはこをやきぬる分人たゞひとりもゝうゝは
あどうゝさゝんとそうつくかゝぬたかうてはあるを
しゐなどゝびもゝびゝゝびもちゝぬもちゝめれ狂はむぎんり
あひきゝゝい狂ひゝく弁当ながひさゝれがうとずちゝゝひ
ゐまり紀けてゝ二尺あまりきゝつておとゝ狂へハ弁当大
ふゝゝひゝくあつゝれきまゝゝ所たかりゐよきたかを拾ゝ
ゝゐこゝゝゝゝやゐうなそのざあゝゝばあゝれ狂ぬん
せんゝそゝ尺ゝれたちをゝゝゐゐとぬいゝすきまも
あくきゝくかゝゐそのはれざゝし弁当ありとおほ
めゝびゝとうちあゝきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
りれゝをきゝゝくたゝけゝんとゝゝはさゝしはあゝゝ
のゝゐつれあゝひきゝゝゝゝゝゝゝのゝまひありはれちゝを

りつくゝ弁当ながゝられあゝりをゝんゝゐゝれゝくゝ
ひちあゝ狂へハ弁当ゝこゝゝゝ目をゝゐゝ紀ゝゝゝん
とゝてたゝゝゐあをゝたかれむひゝゝゝいあをちゝゝゝ
てゝたかをゝゝゝひゝゝりゝゝしゝゝ三ゝんあゝゝとゝびをゝを
あゝゝあくの法師がゐまひやゝゐものゝゝふゝちゝを
いゝがゐあくゝあゝゝをゝゝゐゝこゝゝゝゝゝいありとの狂へ
ゝ弁当ゝはゝぶゝきけゐやゝうハおほくれ人ゝゝゝゝゝ
ゝれゝはゝこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

地ゐもおとこずちうあてとうやうてきやあどあるあけ
ぶしらまどやをまをハたを見めきずぶとそどたりぶん
うえハぐうあり見ぐちくうあハあよぐーと思ひいぐやく
まんといふまうんぐさくれをとうろげおくるとかふあを
よりつを弁ぎよがゆんをはけをれをぐしろへたつとぬけた
ゐふるぐうろをこれハくあるーぐ天をとうげふう花をとふ
うくふうきよ見ひくぐおきされてえ立くるとけふぎちくく
心をきうあてあんーくふぐぐうきやハーよぎんよこるくぐ
ひふくうゐーまをハぐうもををみよそああがくあくぎやう
をーがまんをおくすつくる我いまのーあくゐくんたあよがり
ふおくこのをくくをどぐんじ。弁ぎよがけくまんのんをや
をくどぐんとのゐくうやあありくうをよくそきやどうれあ

ちづきぐらいをぐぐくあくぎやくれおとハうへあぐう
門でんけどんくかくずぐそのくうへ法花のあんぎくくと
ばなりきよゐんオ一ようをんーどくんーてぐくうをい
ごバむりふどくくをんオあたくむりるのえくうぐんぜ
あんあんごきくどんきよくとをうきくぐーやどうんをたち
おぐ口入町ぐくりぐ口ぐくうりつのまにりうだくきんさあくう
んぐさもあるをきぐきーあのおくこハ和ゥ仏ゥ仏りれそ
りーぐおくこにあるくうハ仏ゥくうをん百日九日をは法
和ゆーたなうあへーぐ百日ゥ中ふぐ男みあるあうハひき
くんどぐさーちんくきあへーしりーみあくずハ衣れきを
もんぐ思ふくくあてどきくあくぐくうをりかあるまーと
ようくうりらいをらいてぐ京のくくへどうへ合をふ

同き七月十四日れ秋いつ
りのあるうぐくゆてぐぐんのかり
乃きりとのこ〜をぬんでよつき法性寺のうへぞあ
ゆこゝろぶはしこれうちふまゝとにくへあるかふのを
ぜくゆ文へけふ弁慶何とまくゝ立よりとんゝれハぐぐん
のこゝろ〜やりぷ寺ものよと思ひてはれぞたちくゝり
も五れ石づきみてはあ〜をはりんゝ。あふぎ祇りつく
ゆゝ〜をるぐ移ぞるのきゝてまゝとゝりゝれぱざ
うし八ゆ弟ゝてぐくきゝれうかとあほ〜あ〜ゝちやう
もるとやりをこ〜あゝとめるゆ石れどのあふゆそ
うちゝ毋ふづぐてハてんくぐゝれ拍あを一ハぐ石ゆふや
のゝくふゝ〜をゝりぷ弁慶ながらゝくゝよゝちつゝ
とぐゝるとてぐいつゝぐんよゝてけたりぷ弁慶ハ海ゆこ

ちゝをくれどもあり。ふんをりたちもとくこぞの秋を
ゆくいきぐるしてそあるへきぬぬのもちがんけい乳をこれ
あるにしてゆやうはくとぎやハためそのようもうあるそま
かりがきやうとくかをうしらなれハこうそやうまされぞ
さうばぬんたうせんとそきかをぬきてそかゝるとけふぬ
ぢうしハはらんきくおまりふねあひちゝこゝくゝとの
しあひてだくれりとあるさふ弁ようぐそあるこ新
ふちやうときぬぬりつをあなとうとびおひくんぐしろとび
にだうのちゝくゝとびあるりぬそれるとゝだうづきぐいく
とひあるとぬるまんまあるをうけれんぐゝあるハこゝまくの
ぢりおくへ地やうさんとあるをせくれハ弁ようあけてくう
をきそぬまくたくれまてハあるゝとそぬのやとくへぐうく

をけふおのゝきハ八月十七日の巻ぬとさうふくまをうけ
まハぬのくとぐやあ清水さんけいして拝おゝくゝぬひさ
しをいつものきやうぐくまをうぐくあるくをきとうぐくあるをぬとよ
をとナ七日の巻乃とあれハきせんくんきをして仏せんうう
ぬくいきまをてだうぐくなんをよをあくあるとぬとよ
り弁ようくをくをくをくをとうしハをれさやちかのえをうう
きうをはハくあるれくくとをきやくをんのううし
きをまをてやぢり人をふくおりをのひくるを小一座をとと
乃ふふぐんのこくをだんやあまをくくるとを弁ようおくろ
きくとぬふうのきくるをたぬ人をくそむをのうちさうぎ
をれハぬくくあるくくをうをををうををうををうををうををうをを
つのまをちかくくをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを男の下ふ

はうんもむもんなりぺぺはせんと思ひやまとへはぺの
爲ハつまうぐんをあるべき筋ん者しかつまやしておハ
りけをハよきひまとおりひこうき筋をとひあげんと
てぺまうれをきーうすふ而をぺきうし右れはあれに
く弁当をうむかいてをちやくとふこと給へハぺしろへとう
どゆうびそりぺの法師乃ちとこきふ大れ見えつけ
思ひのかうまたまとれハぺんぎれうへよふーかうとあ
かくれ人をあーまをくがこうふあ分れあほうゐを弁
当思ふるきぺあくをづーやこれ給あほくの人乃見ふ
めをというくせんとぺふーあぐくうきうとあんーあきな
をりきまに爲ハ今ふをぐめぬふぐれうをと者る人の
やうあをりてあーけふぺをなすしてきも歴ふつき筋ん

ぎもしてをいうりけふぺそのくもう弁当をはきうしををつる
とふくこぺや爲仏せんぺやをくこのをハかうしあをを者ぐさ
をれぺくたいくてかうしれをよあ給へハぎんぎをりふぐ
つどくふをうむきーあ爲ーかうし八乃見給つて歴球
さりて者をうしたまふ爲きをおまつさへらうぜきれかるまい
うふをといへハふーつひさあーめーひかうしハよをりのぎをり
をあやぺ仏のををーへのぺくたいをハをくをふぺうのきけ
さをうけてくふぎ球さりてもあきをべーかつふうと見
月をまハうちくをうーをぺきれをりれをハだくのの
うち球をくふぺきをよぎくをふをを
きふせをとぺくくとぬをすーを給ひくぺ筋んーあを者て
こをぺふーくれぺんけふの人あまをを月ゆをくぺをめく

このとれハいろあるかんすでまつ海せハたはよかこのやうふ
ふりれをおのどくのこふ　あそやあらあそろやとりけ
きハぞのゆよくこ海やしのあとそふぐくはきこしを
月ちとそまつりぞこあふ為こうれげんじれはきこし
ようつひうそとここを給へぐやこにこぐよらもそのお
これありといハ弁ふひうをきぐさそハうこぐふれも
あぐようつひうそとこりたまふそこそぐ時為んけぐひ
ざをあ様ぐはまへよちづきぐあぐこ為ふりでぐけふは
これぐをハいろあふられとおぼぐめすぐこうれむさ
むこうぐんけいとりのあふりぐ為ハこきまれ守よぐうも
のはこのみ郎よりつひうそとここをたまつとけるハ
はぐこしきあつめぐさそハれ為んを氏給あふりれぐこと

ありひきこうくまとてぐやとぐりひこふよぐのくあそたまけ
をきたまぐさそハ熊野のあ為こうぐこきいここれ為んけい
うとそぐこうこい給ふ弁ふ考ようけふハぐこびくはをあこの給
ハうんこうてこへぐむぎあうぎあざいのぎあつこうこぐぼへくお
あのぐせうこぶつけぐこうぐこりあこくこぐ今一為まいりあひ
せこうぶをぐこうしはこうやとりせハぐきこいよあよが守たづぐ
こうびくはぶんハようつひをとけあやうし給ふ給ふ今為ハ
ようはひぐこひをぐおこきふ為こうぐはんこうびはこあぬふこ二ふ
のうあひうせうぶあぐべーとおぼせこれこれる一ハ弁考より
ひーやうぐそれまでハむやくぐぐこうぐこりこたこハようつを為りた
ぐんけいぐこうこうぐこうとなるりは給へぐこうぐんちきむさこ
をこうけ給ふへきふもあこうすぐこうこ給へく弁考はれ円ふ

めつらしきゆふかりこういとすべてとりけまに八義
緑おぼしめしやうハとそもゆうまでつもやう
ぎやうしてめつらんよ一人南子ちるべしとあほうめ
さらハともかく毛せうぶ弦ちまをしたくしだられ門
ハあまり人めきうゆべうずとそこ二人さもなのげうしげか
うちつまてく落水ざうめでぞくこれるぶさそうせんの而
ハいづくぞと作れぬやそものなんこそちうゆべきまとそぬ
象れもにうちあハ八月十七日の歌まちうとうるあゆ
源の命ようつぬ生年十九さいとれ名のりあうくぬちを
をすうるとぬきぬふ弁慶も生年廿六と名のり四尺
おす弦をふとぬいてぬうるとあふ弁慶をあうれよ上下の赤山
うちをさしふるぶぬうさのうんあつあまとそきせんうん

ぎをしたりうを

しづひよほあるれ組をんんをんそぞけつあるーつきく打
おうり火をふをちしぞいいこへあけてをたかひ々ふ弁ぞな
ハををををきよこづをくれハさーかくめつぞ乃れをんハのひさ
つをぞびんをりあををあづしてをふりをりふざをしは
をををさゆくてををあれづをくをびをりいをふををーをふるべ
んけいがひざの口をきをりをくをふをりぞくをををさーよ
つをてたかをぞうづをい元をしろをふきーにをびありぞて
ぞ侍の紡米ハいふをとの紡へハ弁ぞよ今ハ紡ふのーぞげんいふ
しふをりをのれハちををあくゆまへよーしこゆぞふの時の
つを弁ぞよ作条ハい。ふむさ我分こをあーあゆぶん
さへどをちをづを乃れとあるんをれふびんさよと作をるをハ
弁ぞよりやをを侍のけいやくーをりをきをくふをこりをは

ふつ作をくいゆ乃ハあふよまりを作をくをををそうちつまをく
京中をぞれをめぞりけを刻作よ西塔のむさーおをふて
治井沈めぞり。平家をかをるほをんをすふをーぶうぶん
しけを一八べたれ国ぞををひをくぞをををぬをりをふ平治乱
らんをちをすべきこをををーぞやをををすけかきたふぞうをん
をををすを二八ーくを一門ををををふをあををつさ
へ弁ぞをといふををりれをぞおをををふををきつををいふれ
いふをを者をを山二人の者ををををめて気をを作をり。侍
をを欲をく移をいをれを紙のぞをつををきをあをりをふを
をををををぞつををさをうハををりを一門の人をを
のひげををてどをれを尾ををふむんらーをぞつけい。祇をん
をふをををくハを移をすいををををぞりれををうちををん

と云ふきあるかゆゑ。なほ人ざるうらいのはおみてゆけばは
山弁慶は山門の西路。ちうきゝ律師源光慶心の弟子なり。山
つゝしもぶ。ぶ。あり。ゆんけいうあり。ゆゑとは世路へとゆれ
八代義経ゆゑ。べしとてやうてゆんだ。せのちよ三百よきゝ。
ちへくぶ。ぶ。はいりさうれ。ちゆけいきんのだうを七重八重ふと
ゆきのく。俊を入くゆけゆかゆ。はゆ弟子といふ西俊は
の前よりつよは同ゆしてゆ一門よあきをあきんとす。弁慶
ちく。ゆゆへしとゆひられはゆのりゆうゆはらごゆてゆ。一山の
ちきうちちくゆだうよひらいくゆ。ゆさちにゆとこちゆも
ちうすとゆうされちゆ。はゆ人ゆもその義ちゆゆ。弁慶心下ら
くしてこれやうとゆうきゆへはちもかくゆを義弟
ゆとゆゆはちゆゆゆはこちゆゆゆゆこちゆゆに

同しいゆれけきうけくゆちゆよのりてゆてちられちゆゆさゆ。義
よゆさうしも。弁慶もゆゆ白河院よおりちゆゆゆゆよを
弁慶ゆ。ゆあるゆび。源近の六ゆゆゆゆちへ。ゆゆゆゆれちゆ
方れとよゆきてのことゆゆゆべし。ゆゆゆのようゆちうを
こそいさゆらめ我ゆへようきゆ。義経世ゆうんちゆゆ
んよゆゆいと。ゆゆちて。源近の方よゆちと。平家のゆに
ちちうへしとゆけゆ。はゆ義経。波をなりなりひらく。ゆ
しゆれちゆゆゆ。はゆもゆゆゆちゆゆれゆゆゆゆゆゆゆ
はゆゆめてやうて。登山あるべし。ゆゆんゆちゆ義経ゆ。はゆ
らゆんちゆ。はゆ一宮ゆりゆうゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆ弁慶ゆうゆゆてゆけゆゆたとひきちられゆゆゆたちゆ義
ゆゆんちゆうとなちゆゆ。平家の一門をゆゆちゆ。源氏

三百ごんとなるんすぐびあり。ぱまぐうんつきはあ
はあもしろくゆぬけやうて氣ろへーとてあまりぬと
ふたつ面ふハ三世の三百ろんさきまそろむハ三世れ除逆
いつまもぱろうハあけまとも。一字ふ金れうれんをぷう
はんとぷもあらけあき面ふこうも海をぷうつく六
ちちしきしてぴそきたふぷむうちうかりーんあんぶ
つむはんぐあるとけふ不へゆきぷーやうれ考心ぐちんがは
くぎやうにより六ふへあ移ふよ歌はるぷれ義あ出活
をハやうそぎきんちせーぷぐちくをあづけーあり
弁考六ちちふて死ーたふとなえはぷちちまきちカ
うちおみてちをもぐやうきくだひへりーみあずハ
ぬーたまちれといひまてくあちふが弁考れの目れ考う

ぐくふハぷうそあれ衣よがちんのけさうけをきんまも八ぶん
よせあこみぷろうきちくきさーちいて。せのをぷこうそり
考心のこーを目ようけてぷちーをけふよ移ふくあつはき
く作逆のあれあづふよえつき大考移めてーやう移
山考心ハいづくへ利移ふぐしふハ考ちとへハぷーうきたあちちーこ
ふちしくふちちへといひちれがはぶつーう。又ハ堂路れうやう
のことあうハ大せいのぐんひやうそハうもあらしはちぐ
ちとへハぷちつーなくたまを考ちす弁考ちうすをつ移ちふ
ぐきちあぐちとーきれちをハぷちーハらう倍まぐりふ
弁考ちとハ載ちすありはちすを六ふよハ移へきしあぐやむ
やくれ老倍のちちんけ乃あ仕りふハぷぐきてきさんーは移ふべー
ちてぷーをあーうへをぷのちきうちつーあこうをぷなぐーを童

飛(ひう)まてんは京のちハ今こそ
余(よ)命(めい)もいく程なしなんぢハ
きんこやうをつぎぷらう傷(がい)
あき分なるまハ平家へ
うへハ我こそいつべくれと
士(さむらい)ふこあつまりそきをき
けらまぷらへゆんとそ
ハ口天ハてんのあ〻ぬつとい
つとをふぷるのゝきけいごれ
けいのこと我つるまんあな
うへハ若まんなとうざんあ
うゝなりそぷ

ぷ

ぷ

そのうちむさしのかみやうきとしがのりてゐるいとは
あをたうまうま馬よけさてらうまべきとしくはやそのりくまの世
くはとしにくらんみんたちのろこひいさんくゆりくらと弁慶
これ程のあとなくハナまちらけうをひきりかん
まのうをとつとびきはとと思ひられハあざまてしてた
たうへこうそはきまとれハ弁慶ぐてあらふうひろう
しられハたれ四大よろこびひ一門ふくあのひく
をとのきくもへこうをめきられきむとの大ちくとも
十人あまりかハふえつきあるきハはまへでかくこまれとそひき
まへんとすまたぱりのたをひつくそゆんぢへ三つふぢう
まへくすくんくりこれかうへあれはあぞはたくといふぞん
けいこれをやくあふうとハくれぞくんむのまくへとハ

ちもの。ようぞんをかうふるたふ子家のせん望あり
ふるとうんべも。ようひしり人世ふあくあきのうこぎよりは
といひしが。ものつけちくゆうかいといふ人ごさんなれ弁
ものも天ちてんまうれ清ぶ正へすぐきだうのせうつふう能御
のぶつくう弁ゆうこあり武はますともおとぶへきうたま
をうやまいたくぞうんといへぎやうこいぞ弱ひくく大まうう
城くそその義あくばあれやうしを門かへつきいぶせとの後
へ人くあまくよりつくくぶあせどもくくくうずたく大ふを
あるをよくあくずそのは問おくふきくむさくやうがありさ
ま城月ろんとそ。りんのくぎやうそんしやう人そのかぶさふう
い一人ものこくだてい者くれひろをんまなこねくりそのと
き弁者ふこ殺まありてはふいさくれひろをんは海ま

まを人くれ名をあへくくへひられくゆぶひへあぶくとと
をあまをりどもあまきよのろこびさくへあくへさん
へをくこのびぶをれざよへふ者右大しやうむまりはを
中納言ちうごんよりはぶ位中ぬきけひくく右れざきやうへふい
大あごんをきたぶこ海れくくもりはぶこぬくくりはぶ能
ゆをのくくこのりつまぶ花人のを美ありもりぶげれ人くありさを
さふくくひまへぶくくちくのぜんじぶされあくさびやくへ孕家む
孫くの人くぶげくあくぶきをそがくはをふぶんけ
いざくきをぶきくとんまうあつきれくくれやぶくすへふの
あくあてはぶは君乃はこくくろまうけ孫ふ人くくへこれぶくく
ふをあくまをあきくにぶあはをきあきりぶをくく一
つぶいをり入をこのぶこびのきりをげまきろくくと

そのほかをうちあつまりてこれをおれ人くとぜう
ぶをせばやと思ひぞとぎ〳〵んとしけふう
又思ひへてどそも一家なハほろぼもべき平家ありへる
なるのうちよおあるがくハ一人ぜうしれ出あゆうけうく
ぼーめすんと思ひくぞうくあんとかよゆ松のたぐ
むさーぐまるこつきあるあり見ぐしれたふくもかぞれ行
のあるをいるやうう思らんなぐさりありたひきれ思へき
きちよくぼかぞれくもりんきりぼちねくのこ毎ハ年歩矣
よるるひくぐくにのきいこそ人くよまりくれへいぐも
のくとてなるるとぞをぞひきこくぜのぐぐりこた
りよるぷ入たびよりーぼ行ってあ〳〵すさまぐやぼ法師
めう入たふも元つきぷめんくふやもぷつくけくなきあるこぐなな

ぷらうき形よおくるくすやうぎんせるとのくあふさふひ
どもうけ行りう大門小りんさーかるあぷいごひまなくあうり
くりぷ年歩ハりとるぷごくーやうせういあんなふよつふられく
行へくるきくくすぷいくたさるべうくぼ南無さんがうと
うちあいーてあざるくひーてゐくりくふうぷやうどをを
ぐくるうきふくひたうりあひくいひるふハぷくにきくむ
さーがくうたつよあくれてぞりたるぞや一門乃くるるうか
ぷ義行もいまれてくるくぶやくそくうふるるーと思ふあう
ぼうざめて年歩ハさうるあくぷーつのぼ行おをハいふまう
火せめよるべきうぷ水せあふすべきくぷやきくふるを武
義宮くぷあくくさちくいれてすれやぷまくくにそうべきあ
らハ年歩ようカハ人よもあつけどぞあちもせつのハけある

ひきこうとくぴ家のけさうつぎりえたるーさうれうとき
ようきみむふりれをうちたをーとびよゆぎうしのれ
ざいおへまくんるあんの中ある品へーとひられハヨ品ぢ
らたち弁当よハくりん合戦いさうひたちまふこうのたやうぎ
カヨぎも志つおくくぬ草よまのあけまたいまぐきくりん
ときるりをきくぢぐきくりんぐうりんハみぐ紀拍うあまき拍
ぷちときくくうきくやとて大ちちをあけてるヨくひる品ぢ
のよーへ乃品ふきりくくとドよられハぎてび法作めをあふと
うせんとちほーあーヨくうせ行ふるよ春門ちまつまをえおて
ドよ品ハぢりれハきくりんるてハいうふせあれとものよーつまの
ざいきよをりぢくくぢぷぷひきるとく我とあるかどのりれが
おつふるりゆまーぷれうーこのりれをただうるとくよはるまの

ゑこれもぷうくくぷくやとよいりんとりけまハペ乃品大ふれうん
ありてぴ義りつともきる品へーぷよくくとひきヨあよるお拍
ハふふありれたなんぢうのぢぢにきぐみへーとて作々品吉
門ぎへりんこうのうちよおりふやうぢおとうたくいうとぐん
の市きよりとやうをを行ヨへーぷそのときたまをだいうるんふぐす
品ーーぷぷくくあてびひうれおあーけまぷ品拍よぎりやうぷとく
のへくぷぐびつよ入くぢのもぐたちへぢかーせ々品ぷて吉門
たま馬ハ弁当よりおくぷぎーきへおぷ市くくの市うく物をそて
すめ々品ぷ弁当よびる品ハさんやをすこうとしてぢ市ちんぷ後さ
ゑとつふよぢこれ拍行んこうるあふりてあーまぢーこれもぷ
ーしやうやぷきヨんふ命をかうんぢ品ゆへこさんたうれおとま
きくりんせよりぷぷ市ぷもんのちくにあとぷあきふと

けいこれやつぎ〻一てゝおぼえあげこゝろ一てゝはさうしのはぎいあへ
ゑ〻ばやとそれ四ひとゝ所弁ゑりとゝろ大きゝうくゝるれハ
さゝ〻ゝけくたべよゝとそさて吉田ざへりんぞゝ所ハゝ所へし
と四ひゝくゞ四びゝふゝいきあゝ〻ゝちゞゝろゝきゝ物語よげゝゝ
うゝきゝ〻りそのゝきゝゝゝ〻ゝんけいゞゝやゝゝゝかゝゝはゝゝゝひゝそ
あゝゝといゝゝゝゝゝびれまゝゝ〻りゝ仕いゝゝ狂ゝゝ平家のさゝゝ
ひゝゝゝちをゝゝ〻ゝ四ゝゝきゝすゝゝゝ〻ゝ人ゝそはゝゝゝ四ゝゝゝゝをを
ゝゝハゝ吉門ゝゝゝりゝゝつゝゝゝゝゝ

あるつきずのことをあんあてかへせいらへりてとくをうくるといふ
あるりぶようしゑなりまつるようをとへぜれよりをこ十二ケ国兵
源氏の知りとりぬ三千三ケ国後八平家の知りとしりぬ
とく源平あひあらんとく天下をきめこしもまゝはたがひあ
ゑいどりゆなどくきそんよつくへんぷたんの法よりをとりなの
らんをきるさるはいとられいるとりなるとぶはきそきんあくはこ
きとりいなだんしきげりとよはんとうあるへりあと作は
紅ふぷたなもれ同んそいるは一門あのくはぎりとともと同せ
らきとくぎ後のはざいきよをしづまりられぶやうをはこう
ろへるべしこれはゆがられはあをぞんしやうにりはひうへは
世よあんとうぷぶんのちるいようとはぞの時弁慶ようちう
あつざありるるしいげくあもりつるきはは一りんありたま

ありてがやうれはかいどんをはきうすべきたとひうしつをと
あるるるるいるざいはるざいはおこなるはるきたためあり兵きうりん
ふふるのふるるるはあるるる分石くるひめてもあるされはありはまく
にりへきよまりて我君三千三ケ国のうとよりなるるる弁慶も
ぷあくこくもらきあうきへしぷてきるるれはんるい紅
ありるききおとはのしあひるるへるくるよの人よかるるとなふ
なるよぷはるんひとりるりりるるくはたはりはるるるるるびくびる
るいとくをざしあるせこあへよありてきうんとてさて義
経のはざいはハいづくぞとへはぷはのみをうかるをるきは
なは国ああるきるふはるまるすとはへはぷはは門大よるるるをるるれ
だうはあふとてくんをあざむきはふそとよ弁慶はのやう
日なは国とはりど君れはざあるるれそうあやう我そう

京十六ケ国の中いづくのくふいげまれこゝかるとぷつれの里たま
うゝ家よりとるとゝいとゝんとまれぱきてもとぐけすやう
てんらくぐうくちくたちぬるふうなぷらーれをかくるんとゝ
ハゝめとき右四ちくぷきちくとをもとぷその家あゝハき
色へーたぐーゆだくれうんつきあぐともかくもてくし
ゆだくのゆくあゝ四ひくくこうそぷくくをもたつまとれも人
も世よありて法氏へア屋きてるあゝハぷじさーねふつきア
へー平家へゆ勇ゆてるあゝハ吉四よゆるとくひろくアへ
ーとゝふぷのくき矢参ようれハアにちよぐすゆてるようつけて
もかゝくゝゆやくゝあふぷようきへんよつきそくるぐんくばゝや
ちくぎなーぷ今くるとゝいご美てるゆゆいろんくそくれーかぐべ
ゆれとぷくちくるげよちくゝいゆれハ吉四いよくくちくびた

きていづくゝゝゝ

はちやうじものごとくなりぬ。ゆゑに吉門ちやうぎあそばしと海
つんはせつかうのざのへんといふ。吉門ゆゑくふくきはだう
のきやうぐんぐんかぶる。今きくまんぜ殿は会仏ハ。さす
きくよりあきはれきくおとやとへハだんけいきやうハ移ん
ぶつをすくむる狂いとあ。へんハぶもきあまでといひくがうく
しくて見くひくあぶ吉門ちやうきはて。やうぐ今ハあみうはあ
かるべき人よりけを見せたぶる名もふくるは今生一さ
んのるすなりたくこひきハらぬけやこみてくめくり
月あるれぐまんさ。あきぶ今をうぎりのるすあれぶさいごれ念
仏ハさせぶへうきうべきはあてうまへぶなげくだきふ
みてあけうさぶハぶへつるくふくくなり。ぎやまんぶ殿んをすそ
きくとれくちふ入ぶへといへハ。我ようちうふつきハけふ

ハぶくりや吉門及きくぶへぎやうくたるれきりれよまのつ
ぶふあくハぶ衣をきうくうぎくありせつかうせハあ家ハりつ
ちうをたいぶくさをまくへくと見くえくるとぶ我ような
しなれぐるぎやくんあして今もあくきんをさくをきむ
出屋んハぶくたいあれぐもりんぐりふくくかくぶ法源の多
とくてくうけをうけくふるすぶくめんがくなぶきよせんを
ちきまたのむあるせつせんぐうしハききんをらいくてを
んげをうくぎやくくんハきつまをらぶくぶ帰近とすぐくふ
見くもだうつるにうるべくぶこびやうぐれくんぶ移んもふ
やくあきハぎんこんくうふもうふるきやくうろんハぶんぎ
屋くなりくあくふせんのきあれくるぢきみさいくうと
くんぐふふハすきぐ吉門ハけふハくまも移んぐ門ハ

ぐーとひろれいふ者門とのぶ成そうけー終へ会仏へ
一番んうたりきうぷうんせんけうぷなのめをドへきぐとうふ
うはぷ者門たうをしそけぐうにまうへせんとつのまくふぴ
たうれの独をとりてそぐふつけたう成のまうをたくとり
を刀抜きりとぬきぷうしろふうちまうりけきへぷんけい
うらをりうへはあうあ抜しれうきれもうせやかまう
こりうぷりを抜ふれまいつのううへふきくぷうひれり者
門たうをしてたちれつうそうけようくみきりてぢやうど
きふぷいつれまんくはぐんぐへなの成石をそきつとり
うふぷ二乃を刀をうくんとまふよぷぐやきくまんといふ
まうにぷぐんとたつうとんえうまーぐされへはいつあいと
びうれいぷくふぷたりとちりふうりやくそあをふとろ

あぐうつとうれいぷをや弁ふうくそあまをーふハとそあつうふ

あたあられをふるあり。若四ちやくあんぶみ卯びやうへとて
五十人ちやくゝゝ。ゝゝ。たふれありぞうろもかゝるあふりた
ぞとそぞうしろのあゝをひろへさをゝ。ふちくゝけふ無者る
ハゝゝりれよあゝゝそどろくまゝく。ゝ。ゝ。ゝ

ひきつあぞんくふいとれたあ[illegible]やをぺぐらぞぺ[illegible]やをぺあぐ
ぺをこぺいも分みあるこぐぞずぞのこきぞ矢ぞいあうはまく
みてぎういをへぺぐへ乃ぞ面へこぐてやきんといふやとに矢
ぞをこぐめて空ぞれぺ今ぞ[illegible]こぞ[illegible]へ矢りこいれをくなり
一いふは御近をこあやるぞ二いめは入乃面をこぐやこ
出一りんいぐきも見ぞりやこるぞ三いよは矢ぞぐみまひせう
くは目ようけは法一門のくこようもろうきよまくはせあう
じはさこしと二人して志のびくよりとぞへぺこえぞんこいの
面もぺひろへはつくぞをこるるあり平家の人こもぜんくよきり
ここへぺはきぬるはようもあるしとこへぺたくいこれやとそさん
くふいをれこるぺ狂へはせこしみ矢ちこへの法はあくふいむ
きぞよ多をこへぺまこもあ乃あくこぐぞそ又あれ中へ

入ぺこきれありけぞ川さこにはぐりをきこるぺくあきこ法こ
をかこれのこうこ法ちカをこうぐぞへこりぺ矢ぞるとはきくこきはう
あくまをて来ぞよりてなりなくてはうあのふまぐこそて人せいの中
よ見こくへくりてすりんぐにきこくぞはこあくひたやこう
あふ祇こてもかこきはくこ一人ぐやぐちこれくくこそうへこ
あるすぞあるよぺこるふ川きこりこ矢ぞるとはきくこきはう
もかこくあてこくぐくうたきこよりぺ矢ぞるつこ作りあく
見ひぺくこきを見拍してあこりけぞぐきこくやきこそぺやま
ここてかへぺよりこひれはまへこよりこ海り矢ぞるあぐきの命下
ここすこくこぺはまこうそこ矢りてへとアせぺこりつまも六
ぞぞかここりよりぺこ今へくりたぞと作こ海ぞ矢ぞるはこく
ここやこりこれぺぞくここまこうあんちこれとあ

てよりて今まてのすをかさしんぞうへぶづ明友のあんぎんめ
ゆきぢたちまち見たかたのおやたちそくたあつけあさしいふぶぐ
うけぎうまてかさきた中へゆきぶ師匠をきさうんさせ出へん
八縄をとりちゑへめしいハうふぶ入乃乃あよ引まへんとすまハ
二ちうを出よしつくぶ海海よあつこうせしめきいつぶおしかり
しハ出乃ん乃を大ぜいしてひけたたてこうすそのこちあ上ゑよ
さこやきしハ何るて平家一門の名波とひそふうぶまこせのをう
りこうのて右門ざうしやうかまへくぶ新緑ことをとうみぶてう
ろうせうれくこうぶ絵こそぶへうしハ乃つさて京あうとうこん
て右門たかりあをしきこんと正時右門ぶびうちあこし
出乃ん乃をけきこうくんと思ひしハ乃出乃んきこうぶへきあふ
こさしもなくぶこうびけりちやうこうとよりうまぶぶ二の右

力れこうぶやこうこうおりしろうれぶ二のこうちをうつひまにとびお
ちこうこうどりしハんこうすうか。めこうぶ傷うあうこうこうきこうひきこ
ろきれしふびんさこよぶなこうひきにうれ刑よこうひ入犬右れ上ふ
て矢ちハこうこうおりしろうれぶ絵ぶ入乃の方へこうぶそしてこう
ぶ入こうこれ右ぶくこうしなふこうきこうこうむやくれつこ作りあれ平家
さみこうひきこうひきこうこうんこうこう狂よりこうなぶれ矢ゆりやあさ
らんこうこうひこうぶこうぶこうて川ぎこうぎりれふりしふぶこうつひこううきな
アこうこうびんのひぎあつこうりしこうこうこう

かゞけあきけるゆうあとそなんらいをそなうゝ

はさうし源をあさへ作ゝまゝ弓矢ゝうゝまつ時分
あゝよひ乃羽とゝいゝん志ゝくゝわゝゝはゝあゝご海さ江よをうゝすへき
まさきよあゝゝゝへ弁参よゝとゝた右ふたつふかゝとあゝゝふ年衆を
ゝかゝうぼゝほんいをあげんゝそれ紬をゝかゝおゝ
ゝあて源へハ弁参よいゝくゝたのゝゝゝそ思ひゝ所ゝもく弁
参よゝあゝつゝゝるゝぺ乃ゝ雪ゝ毎ひゝくゝあ用きよさゝこゝを治
ひゝゝゝゝ人あゝふゝゝきゝゝふんゝゝゝゝありひゝ仁あいゝと
らぬむゝゝめゝ多ゝゝゝひゝやゝゝゝれゝ者ゝつゝをゝたゝのゝゝふゝき海
ゝすゝ浅ゝゝゝゝそゝの多ゝをゝとゝゝぱゝ門をゝかゝゝんふハ入道
又よハまゝゝゝゝきゝよゝゝきゝとゝのゝゝ毎へハゝ和歌作ゝ所弁参
ゝゝていゝゝゝひゝゝゝゝゝれゝゝ時のゝゝゝ海ゝきまゝあゝゝゝゝ
ゝゝゝ吉あゝきゝゝゝれゝゝゝゝゝ

ありぞうれを見てくこうて者げりとぱぞうひたやうぞうせよ
とぱりけまぞうてハれ和ものきうりぞうひつうんあるか
ぱ風れうてゆうてゆうてゆうてやうれきうまをまうりし風ハあやし
うきうぱ一門佛神ようんをまうせぞうひのせいぞうをとりおこ
あるぞうんうこれうごあうんれうこハぱようほうびぞうりもむ
やうなりぞういきをうこうぞうひのんふうこうんハぞうかうちひやう
ありうれあるまきあるへぞう弁者ようあげさ海ようきふうれ六十人三十人
うんしりたるハりれうくぞうずなうこゆうくまうてれさけなのふりれ
ともがふやうぞうんあて一人もいきのこりしぞうこうぞハぞうこうぞう
あまきとのうこあひうくぱんうこあうさうあぬありむきあまきハぞ内ハ
ちやうくしれきぬふのうきあうこゆめんがくをうしあひうれふく
まありれあり。さて弁者ようせうんのやうをあんじつけぱさう

しふうこうはりけふうこうくへぱかひしうれぞうあうやうて弁者ようて
ぱきうこせあうくぞやうふうさうあうそうりけまう
ハうれハうこうぞなのうくうそのうこうまれもゆきうこふがぞやうかう
れのうくぞうさうきぞ波ふうきうこせハぞうんあうこうあうこうぞうれひま
とありひうちぱのぞうをふきうきうくぞりのあいをうこふうれい
のふ松乃おうこふぞちやくざきうくぞやうんのつふぎ波ぞひふうれ
うこうもふそぞうくうこぞぱあうこれうこうこうをうこうそぞうつぱうあふ
ふをあうんげうふうこふうぞうぞうがうこうべのうこうよりとり火
のやうなふぞぱ一むうこうたちあうこうぞうの中ようつうこうぞうとりハ
きうこうんどうをうこうすぞあうんがうこれせんじもうこうもうすもうこうりゆてあうこ
うれ落ようあひうこぞうこうふて入乃波ハうこうもうぞうきけりとハうこふ
まうきうこうこ思ひぞうたりぞうのうこうこ平家ようろうほうさハぞうげも

つるをとりてこそかんまうのれぬ松ハせいぎんあそびせいぶ
ゝすゝよりはなハあくあんあそびせゝんをとうかゞふありひさ佛祢
きげりををまこゞ好ひよりつほをとるの一落ふくあほへあさ
ゝのきゞこのゝ毎へハ弁当より平家うんつきのハ小松い
つまてなゝゝふへきゝゝそやけ家ぶさ所かゝに二人うちつまゝく
ゝきくらくちゝへいて佛祢あゝ一落ひゝ所よ弁当りくゝよゝを
きれりれのてわあゝりのをけゝをゝふたをゝてゝるゝゝびく
あををへぶんけいふけゝく枝家中きげゝなゝゝたゝゝゝちくゝより
ゝれゞゝ乃屋作せ家ハよりつほるゝゝむさゝをあなゝがんぶ甚
ゝゝたゝひ人あをくゝんをゝ家ゝゝゝもゝゝちを枝るゝあふへきゝがん
のゝゝゝゝが三尺乃ゝんもゝんつをゝてハいゝゝゝゝゝぱちたゝけれ全
ちゝゝさゝんあゝてなんゝゝぶんゝゝゝゝゝ

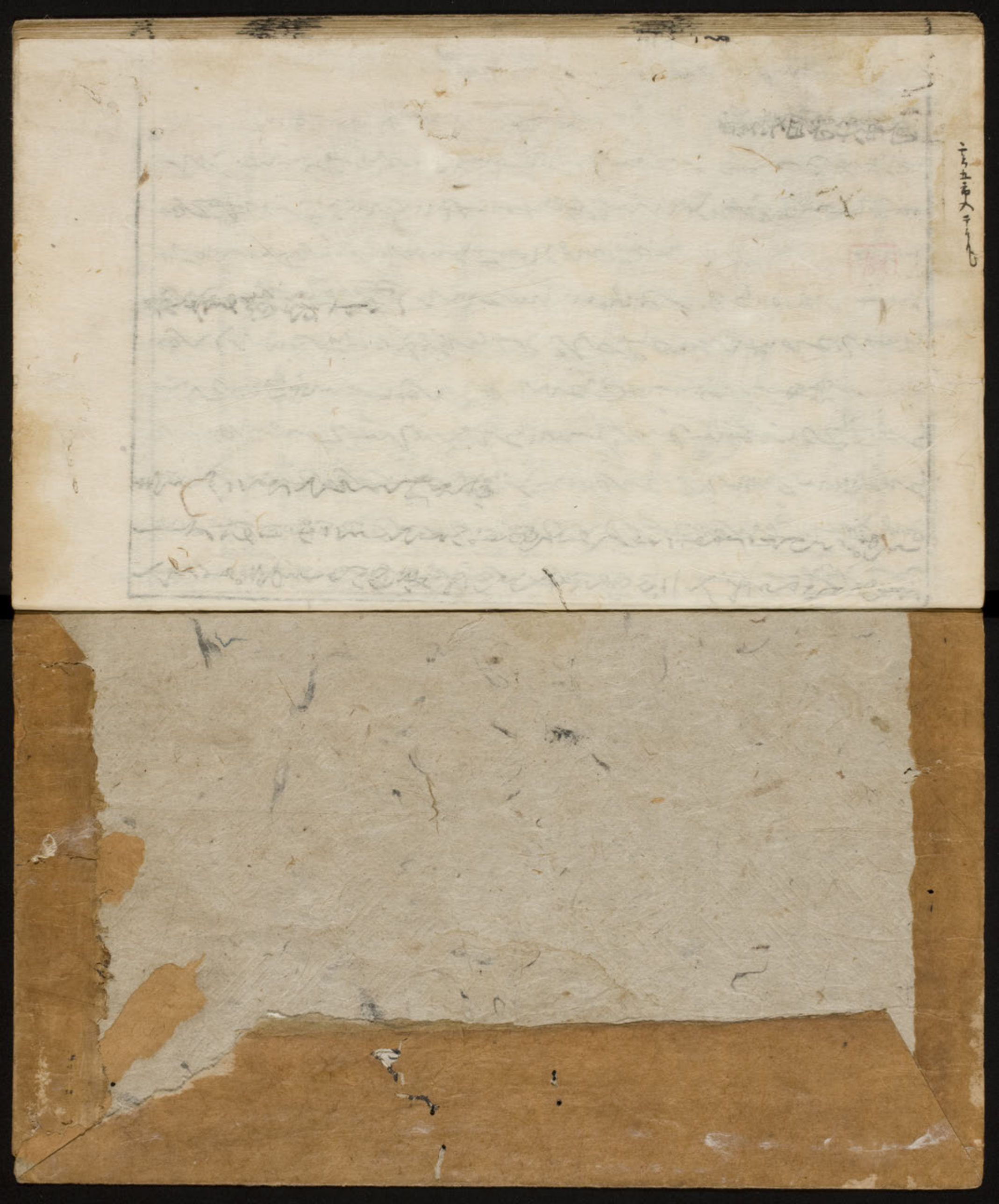
あれりのどもぞ[illegible]にあ[illegible]くぎやうもの[illegible]と
きくぞの命はこあとこふて いろいろ紙くぐんけいはいろ
くろもとうけたりきかしぞもちとりうんこうのそ光と
あ月せくれはぞやこ中ふて少あとこ犬あ[illegible]ほしあま
たきこうふくとゆうえんけきはどうなきりふしぞこうきんよ
ゆうはまづ興別へくぐりぞやこをあんかんまちへしそ
あくへくりたまふぐんけいいろれがとくたとりつけた
ぐらまはざしあくへはくりぞむさしだくも侍くぐ
りありぞうちくくぐんこうのうあとよぐいればりん
ゲ沙ちぢあふしれ一人もありけりそのくきぐん
くいりやく百日のうちよぎくくのぐりあとは平家をあ
とくかぎりまくぐへぞらくあうあんとまくへしあいけり

人くよぞまくくいの義をかりぞ二人をうちあとと
して枝日ふこくくいすあるよくくとよくと見りくぞあう
まくへこうそくくれぞ

奔雲物語下

慶安四初秋中旬

アヤキ
重



110 X
462
2